九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九大所蔵漢籍の特徴と保存・整理の問題

竹村, 則行
九州大学大学院人文科学研究院文学部門 : 教授 : 中国文学

https://hdl.handle.net/2324/16266

出版情報：貴重文物講習会. 28, 2010-01-29
バージョン：
権利関係：

九大所蔵漢籍の特徴と保存・整理の問題　（第 28 回貴重文物講習会、2010．1．29）

※本報告は、九州史学会シンポジウム(2009・12・12)報告「九州大学所蔵の史資料（漢籍）」を基に、本講習会用に修正したものである。

人文科学研究院　　竹村　則行

一　はじめに　ー漢籍とは何か　…*漢籍・準漢籍の定義。*

① 「漢籍」とは清朝以前に中国人が漢文（古典語）で著した書籍を指して言う（広義には近現代の活字本・影印本等を含む）。日本人が漢文（詩文集、注釈等）で著した所謂「準漢籍」は国書に含まれることがある。

二　漢字、漢籍と日本文化…*日本に伝来した漢字、漢籍と、それが日本文化に与えた影響。*

② 漢字漢籍の日本への伝来（応神天皇（在位 270-309）時、王仁が『論語』『千字文』を伝える? 鏡文・貨幣文?）。初来の記録が儒教書と蒙学（初学）書であることは興味深い。

③ 以後約 1700 年、日本文化は一貫して漢字漢文の影響下にあった。特に**平安**（遣唐使）、**鎌倉**（五山僧）、**江戸**（鎖国）、**近代**（明治大正昭和前期～日清・日中戦争）期は漢籍による漢字文化の影響が顕著であった。今日の日本の漢籍は主にこの時代に蓄積された。

三　九州大学と図書（漢籍）　…*創立百周年を迎える九大の知の創造を支えた図書（漢籍）について、21 世紀の今日に再認識する意義と必要性。*

④ 創立前初期（明治大正）ほど、購入・寄贈図書の漢籍図書の比率が高く、戦後（1945 後）は洋書が増加する。今日購入の漢籍は古書（稀少）か影印本・活字本が多数。

⑤ 今日、漢籍は貴重な文化遺産であり、確実な保護と今日的な活用の施策が必要。

四　九州大学所蔵漢籍の特徴…*西日本の拠点大学たる九大の漢籍は、東大や京大等の大規模校ほどではないものの、その歴史と文化を反映して、相当豊富に漢籍を蔵する。*

⑥ 長年の継続購書と個人文庫(寄贈・購入)による蓄積。　←　国会図書館（東京・関西）・国立公文書館（内閣文庫）・東大図書館－東文研・京大図書館－人文研、他

⑦ 九大の碩水文庫（楠本碩水、中国宋明儒学）、濱文庫（中国近代戯曲）等は特に貴重。

⑧ **図書の蓄積は「眼力・金力・権力」による**（竹村）。長年に渡って集書者の眼力と経済力（図書購入費）によって蓄積された九大の漢籍（一般図書）は相当に貴重である。

⑨ 蔵書の貴重さは所謂国宝や重文級図書のみではない。その時点での一貫した集書テーマを持つコレクションも重要であり、個人（特殊）文庫はこれに相当する。

⑩ **「物以稀為貴」**（物は稀なるを以て貴と為す。白居易詩、魯迅「藤野先生」）…国宝や重文級図書は勿論貴重だが、稀覯文物の多くは実は当時の通常物が今日稀覯化したもの。

五　九州大学附属図書館漢籍目録　→九州大学文学部漢籍目録　→九州大学漢籍目録

⑪ 『教養部図書館漢籍目録』（1971）・『附属図書館漢籍目録』（1995）は既刊(要補正)。

⑫ 文学部漢籍目録（冊子）の構想はあるものの未着手、実現は相当に困難（OPAC は済み）。

⑬ 近く予定のキャンパス移転に伴う漢籍、書籍の調査データは、移転のみならず重要。

⑭ 将来、総合化した九州大学漢籍目録（或いは全国全世界の漢籍目録）の実現は一目標。

⑮ 今後の図書目録は、冊子目録（紙媒体）からデータベース（電子媒体）へ移行するか?

六　新中央(文系)図書館(伊都地区)における図書(和書・漢籍・洋書)の保管と活用

…平成 29－30 年の伊都移転に向け、近く新中央(文系)図書館の最終設計が開始。

⑯ 移転の際、移籍する - しない(廃棄)図書の分別が必要。六本松図書館の経験を教訓に。

⑰ 図書(和書・漢籍・洋書)に対する認識と、保管・活用に十分な新館の設計が必要。

⑱ 新館は、西日本、アジアの拠点大学に相応しい機能的な図書館の設計が望ましい。

⑲ 過去に独自の歴史伝統を有する漢籍分類は、日本十進分類法（NDC）よりも四部分類法（経史子集）による分類が相応しい。漢籍の NDC 配架は使い勝手が悪く、非機能的。

⑳ 図書館・人間が図書の敵になる!?…**『書物の敵』**（19C 英、W・ブレイズ）より

＝ 火・水・ガス・埃・**無知**・紙魚・害獣害虫・**製本屋**・**蒐集家**・召使子供

＋ **地震・多湿**（20 世紀昭和の庄司浅水「書物の敵」補）

＋ 蔵書家（子孫）や蔵書機関（図書館）の無知・**IT 機器**（21 世紀平成の竹村補）

★ 1923．9．1．11．58 関東大震災、2005．3．20．1053 福岡西方沖地震の教訓。

㉑ 伊都移転に際し、関係者の無知や物理的制限（容量・予算）に因り、貴重文物の冷遇紛失破棄が生じる懸念がある。

→ 漢籍講習会（1991－94）・ **貴重文物講習会**（2007－現在）や公開講座等は重要。

七　まとめ　－図書の将来とデジタル化*…図書の情報化(アーカイブズ等)の重要性は認識するが、図書(漢籍)そのものへの確かな認識は、文化の基盤要素である。*

㉒ 美術館・博物館の展示では、ラベルを読むよりも対象自体への凝視が肝要。同様に漢籍認識についても、電子データはともかく、漢籍そのものへの直接の把握が必須である。

㉓ 総デジタル化の時代ではあるが、アナログの象徴たる図書(漢籍)は、そう簡単には消滅しないであろう。なぜなら人間自体が究極のアナログであるからである。

㉔ 人間と同じく有機（**生命**）体である図書（漢籍）には、アーカイブズの情報処理はともかく、図書そのものを無機質のデジタル化（符号化、記号化）することはそぐわない。

㉕ 漢籍目録（京大人文研）・論著の目録・本文等（国文学研究資料館、QIR、他）の全国的・世界的情報公開は可能であり、既に全国全世界的に進行中。

㉖過去の文化遺産となりつつある漢籍（図書）への確かな認識と保護が現在求められる。

㉗中央図書館のライブラリーサイエンス構想は、過去の冊子体図書（漢籍）への理解の促進と共に、将来電子化されたデジタル図書（館）への展望を開くものとして一定の期待。

㉘世界規模のIT化と九大キャンパス移転の渦中にあって、時宜を得たこの講習会が、九大の漢籍（図書、文物、史資料）の価値を再認識する契機になれば幸いである。